

6. 1854 次調査報告

遺跡名	武蔵国府関連遺跡		
グリッド	N59-10次, N69-9次		
所在地	東京都府中市若松町1-2-6		
現地調査期間	令和2年6月29日～令和2年7月28日		
面積	35m ²	遺物出土量	コンテナ2箱(7袋)
検出遺構	溝1条(N69-SD10) [奈良・平安時代]		
調査担当者	西野善勝		
調査従事者	中修寛(府中市遺跡調査会)、村田博・梅宮誠・平林彩・村田百(株)Daian)		

1 調査地区の概要

当調査地区は、武蔵国府関連遺跡の清水が丘地域に位置し、京王線東府中駅の北北東約140m、国道20号(新甲州街道)から約30m南に所在する。地形的には府中崖線から約500m北の立川段丘に立地し、遺構確認面は第IV層である。中グリッドはN59区とN69区にまたがる。東側に631次調査地区(『概報32』)が隣接し、南東には道路を挟み800次調査(『概報35』)、北には621次調査(『概報32』)が位置している。

2 遺構と遺物

溝1条とビット4基が検出した。

溝

N69-SD10 調査区内を東西に走り、両端とも調査区外に及んでいる。規模は、長さ4.2m以上、検出面での幅3.95m～4.15m、底部の幅2.1m～2.15m、深さ1.6mを測る。断面形は逆台形を呈する。古代の区画溝の一部である。

当溝は東に隣接する631次調査地区(『概報32』)において発見された溝(N69-SD2)と繋がるもので、631次調査区の東側に隣接する772次調査地区(『概報35』)で北に屈曲することが確認されている。さらに当調査地区の北に位置する621次調査地区(『概報32』)には東西棟の掘立柱建物跡1棟(N59-SB1)がある。

遺物は覆土中より古代土師器の薄手の甕片、須恵器の坏・埴・瓶片と縄文時代の所産と考えられる黒曜石剥片(01)が発見された(第1854-6図)。

ビット

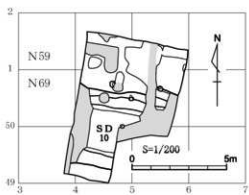
4基検出された。規模は径0.2m～0.3m、深さ0.2m～0.7mを測る。すべて暗褐色土を主体とする覆土で、その様相から古代の所産と考えられる。遺物は出土しなかった。

表土からの出土遺物

表土からは、古代の土師器片、須恵器片、瓦片が出土した。いずれも小片のため図示するに至らなかった。

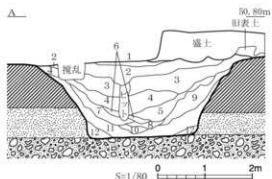
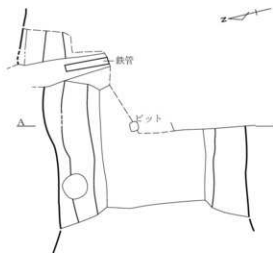


第1854-1図 調査地区位置図(1/5,000)



第1854-2図 調査全体図

6.1854 次調査報告



SD 10	
グリッド	N 69 (3~5, 49・50)
偏向	E-10°-S.
断面形状	逆台形。
規模	長さ 5.20 m 以上 × 幅 400 cm × 深さ 160 cm.
備考	東・西側は調査地区外、覆瓦に切れられ、ピットを切る。

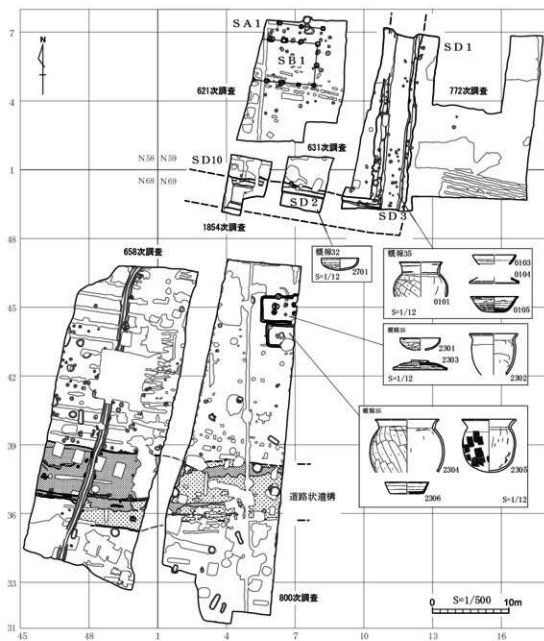
N69-SD10 土層観察表

1. 暗褐色土。粘性強く、しまりやや弱い。粒子粗い。他層に比して黒色強い。II層相当。スコリア質強く、ボソボソしている。
2. 暗褐色土。粘性やや強く、しまりやや弱い。粒子やや細かい。I層と同様にII層相当の土を中量含む。
3. 暗褐色土。粘性やや弱く、しまりやや強い。粒子やや細かい。φ1~3mmの黄色スコリアを微量含む。φ1~2mmの赤色スコリアをごく微量含む。
4. 暗褐色土。粘性やや弱く、しまりやや強い。粒子やや細かい。φ2~3mmの黄色スコリアを少量含む。
5. 暗褐色土。粘性、しまりともにやや弱い。粒子やや粗い。3~5層に比べ色黒い。φ2~3mmの黄色スコリアを微量含む。
6. 暗褐色土。粘性、しまりともにやや強い。粒子やや細かい。暗褐色土を主体とし、φ5~30mmのロームブロックを微量含む。
7. 暗褐色土。粘性、しまりともにやや弱い。粒子やや細かい。φ1~3mmの黄色スコリアを微量、φ1~2mmの赤色スコリアをごく微量含む。層底部にローム土を少量含む。
8. 暗褐色土。粘性、しまりともにやや強い。粒子細かい。φ3~4mmの黄色スコリアを微量含む。
9. 暗褐色土。粘性やや弱く、しまりやや強い。粒子やや粗い。φ1~3mmの黄色スコリアを微量、φ3~10mmのロームブロックをやや多く含む。層底部に顆粒状のローム土を少量含む。
10. 暗褐色土。粘性、しまりともに強い。粒子やや細かい。φ1~2mmの黄色スコリアをごく微量含む。酸化鉄ブロックを微量含む。層全体がやや硬化している。
11. 暗褐色土。粘性やや強く、しまりやや弱い。粒子やや粗い。暗褐色土とロームの混合土。暗褐色土40%、ローム60%。
12. 暗褐色土。粘性やや強く、しまりやや弱い。粒子やや粗い。11層と同様に暗褐色土とロームの混合土。但し、本層の方が暗褐色土の混入が多く、11層と比して色黒い。暗褐色土70%、ローム30%。

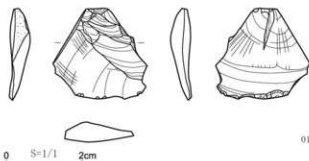
第1854-3図 N69-SD10実測図

3 まとめ

今回の調査で確認された溝は、武蔵国府関連遺跡のなかでも最大級の深さを有する区画溝であり、その区画目的が注目されている。国衙周辺の国府内では複数の区画溝が確認されており、これらは官衙的施設に伴うものが主体と想定されている。一方、今回の区画溝は国衙中心地から東へ約1.4kmもの距離を隔てており、区画溝の全体像とともに区画目的の解明が課題である。



第1854-4図 1854次周辺図



第1854-5図 遺物実測図



M 55 - S D 10 (01)

第1854-6図 出土遺物

遺物観覧表

No.	出土遺構	器種	特徴
1	M 55 - S D 10	石器・削片	最大長 240, 最大幅 250, 最大厚 5.5 mm, 黒曜石, 縄文時代。



第 1854-7 図
1854 次全景 (北西)



第 1854-8 図
N 69 - S D 10 断面 (西)



第 1854-9 図
1854 次全景 (南西)